

文芸書



国道食堂 2nd season
小路 幸也/著
田舎にあるけれど、何を食べても美味しい食堂<ルート 517>。そこは、お店の中にプロレスのリングがある。そこで結婚式を挙げることに!? ちょっと変わった店に通う人々のさまざまなドラマを描く。『読楽』掲載を書籍化。

「グレート・ギャツビー」を追え

生きるとか死ぬとか父親とか
そうだ、やっぱり愛なんだ
何がおかしい 新装版
ほたるいしマジカルランド
嵐の前の静けさ
フシギ
コンジュジ
公孫龍 青龍篇
ばあさんは15歳
花は散っても
おたがいさま(れんげ荘物語5)
アンブレイカブル
刑事の枷
鼠、十手を預かる
ははのれんあい
ヘルメースの審判
あなたがはいというから
アクティベーター
十年後の恋
もろびとの空 三木城合戦記
銀の夜
紅蓮の雪
母 影
アンダードッグス
犬がいた季節
おれたちの歌をうたえ
小 隊
終わりの歌が聴こえる
永田町小町バトル
三つ巴

ジョン・グリシャム
ジェーン・スー
柴門ふみ
佐藤愛子
寺地はるな
吉本ばなな
真梨幸子
木崎みつ子
宮城谷昌光
阿川佐和子
坂井希久子
群ようこ
柳 広司
堂場瞬一
赤川次郎
窪 美澄
楡 周平
谷川直子
冲方 丁
辻 仁成
天野純希
角田光代
遠田潤子
尾崎世界観
長浦 京
伊吹有喜
呉 勝浩
砂川文次
本城雅人
西條奈加
佐伯泰英

一般書・児童書



楽しい日本の恐竜案内
平凡社



ディエゴ・マラドーナ
文藝春秋



とにかかくたんゆる〜と
はじめる10分自炊
島本 美由紀/著



パンどろぼうvs
にせパンどろぼう
柴田 ケイコ/作

上士幌町図書館ブログでも入荷情報をご案内しています。

<https://horonlibrary.blogspot.com/>



志村けん 160の言葉
志村 けん/著



うめしゅんの世界花探訪
梅沢 俊/著



アライバル
ショーン・タン/著



あかいそりにのったウーフ
神沢 利子/著



かみしほろ
としよかんたより



上士幌町図書館 生涯学習センター1階 ☎2-4634

◆開館時間 10:00~18:00 貸出制限なし(ただしDVDは3タイトルまで)
◆休館日 毎週月曜日・月末日(最後の平日)・年末年始(12月30日~1月5日)

町民文芸誌
火群 46号



町民文芸誌火群編集委員会(白石馨委員長)では、火群第46号を発刊しました。今号は、33名の方から40作品が寄せられました。昭和45年、成田空港建設を巡り、国と反対する地主との攻防が激しかった当時、千葉で働いていた自身の経験をもとに書いた井上壮一さんの創作「青春・旅の終わり」をはじめ、今号も力作ばかりが揃いました。昨年夏にオープンした我が町の道の駅が表紙を飾り、巻頭グラビアでは、全国からの多くの寄付によって、再生工事が行われた「第三音更川橋梁」を特集しています。図書館では貸出、また1冊500円で販売を行っています。ぜひご一読ください。

氏名や住所が変わったら
利用者カードの登録変更を

- ◆氏名・電話番号・住所が変更になる場合
→カードをお持ちのうえ、図書館カウンターで変更手続きをお願いします。
 - ◆十勝管外に転出される方、
十勝管内に転出後、上士幌町図書館を利用しない方
→カードの返却をお願いします。
 - ◆十勝管内に転出後、引き続き上士幌町図書館を利用したい方
→カードを返却し、図書館カウンターで変更手続きをお願いします。変更後は管内広域利用者として、上士幌町図書館を利用可能です。
※管内広域利用者の方は貸出冊数の制限などがございます。
- 利用者情報の正確な把握のため、ご理解、ご協力をお願いします。

ようこそおはなしの世界へ

- ★お話し会
◆日時 4月10日(日) 10:30~
◆内容 お話し会「カッコウ」による絵本の読聞かせ・紙芝居
◆会場 生涯学習センター視聴覚ホール
◆定員 15名
- ★えほんのトピラ
◆日時 4月17日(日) 10:30~
◆会場 生涯学習センター視聴覚ホール
◆定員 15名



おすすめの一冊

つづらふじ 九十九藤
西條奈加著



『心淋し川』で今年1月、直木賞を受賞した池田町出身の西條奈加さんは、本町図書館でも人気です。2016年に刊行された本作の舞台は江戸の日本橋。増子屋太左衛門は、父から受け継いだ油問屋を繁盛させ、さらに蠟燭問屋、合羽問屋、口入屋(奉公人を世話する商売)と、20年かけて店を4軒に増やしました。蠟燭問屋と合羽問屋は、油問屋の勢いに乗せて、2軒とも順調に売上を伸ばしましたが、全く性質の異なる4軒目の口入屋はどうも芳しくないようです。これも太左衛門がやってみたくて始めてみたものの、いわば新規参入事業。口入屋は、他の店の売上で支えられているという状態でした。この窮状を建て直すため、太左衛門は、茶問屋駿河屋で奉公していたお藤を我が店の差配として迎えました。お藤は、生家が口入屋で、幼い頃から祖母に性根や商いを厳しくたたき込まれて育ちました。女の差配を迎えるという話に戸惑う番頭や手代たちと折合いをつけながらお藤は、型破りな秘策を次々と打ち出します。幾度にわたる葛折のような難局に立ち向かうお藤の勢は痛快です。